

コスタリカ内政・外交定期報告（2013年1月～3月）

【要旨】

内政

- 2014年大統領選に関し、与党国民解放党（PLN）のロドリゴ・アリアス氏及びフェルナンド・ベロカル氏が党内予備選を撤退し、唯一人残ったアラヤ・サンホセ市長がPLN大統領選候補に事実上決定した。
- 世論調査では、引き続きチンチージャ大統領の支持率は低下し続け、次期大統領選に向けてはアラヤ市長が優位を保っている。
- チンチージャ大統領が、2013年の重点政策を発表した。
- 大統領から任命された賢人委員会が、ガバナビリティ改善のための提案を政府に提出し、政府はこれを踏まえた法案を国会に提出する運びとなった。

外交

- 1月9日、カスティージョ外相は、2009年のキューバとの国交再開以来、コスタリカの外相としては初めてキューバを公式訪問した。
- コスタリカは、今年上半期のSICA議長国に就任し、1月22日にコスタリカで今年初のSICA首脳会合が開催された。
- チンチージャ大統領は、1月23日から27日まで、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラムに出席し、また、スイス、フィンランド、モンゴル、ラトビア、ルワンダの首脳及びIDB総裁と会談した。
- 1月26日から28日にかけて、チンチージャ大統領がチリを訪問し、CELAC首脳会合、CELAC-EU首脳会合及びSICA臨時首脳会合に出席した。
- 1月27日、EU・CELAC首脳会合の機会に、チンチージャ大統領は、キューバのカストロ国家評議会議長と、両国の首脳レベルでは50年ぶりとなる会談を実施した。
- 2月20日、チンチージャ大統領とペニャ・ニエト墨大統領はサンホセで首脳会談を行い、貿易・投資関係の拡大及び様々な分野における協力について協議した。

【本文】

I. 内政

1. 2014年大統領選挙関連

(1) ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣の与党PLN予備選撤退

1月4日、ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣が、次期大統領選に向けたPLN党内予備選に立候補しない旨を発表した。アリアス氏はその理由として、世論調査の動向等を検討した結果、党内におけるアラヤ・サンホセ市長への支持が明確であること、野党やメディアからのネガティブ・キャンペーンが激しいこと、これらの影響により選挙資金集めが厳し

くなっていることを挙げ、「現実的に見て、これ以上努力しても良い結果にならないと判断した。」と述べた。アリアス氏はチンチージャ政権発足当初から次期大統領選への意欲を示し、昨年6月の世論調査まではアラヤ市長と拮抗していたものの、その後デサンティ元国会議員やフィゲレス元大統領が予備選から撤退し、これらの支持層がアラヤ市長支持に回ったことで形勢が不利になり、最新の世論調査ではアラヤ市長に倍以上の差をつけられていた。他方でアリアス氏は、2018年大統領選への立候補について記者から質問され、「様々な可能性がある。」として、立候補に含みを持たせた。

(2) アラヤ・サンホセ市長のPLN大統領選候補決定

与党PLNの党内予備選に関し、1月9日、アラヤ市長とフェルナンド・ベロカル氏が共同記者会見を開き、ベロカル氏が立候補を取り止めてアラヤ陣営に参入すると発表した。これによりアラヤ市長が唯一の候補者となったため、4月21日に予定されていたPLN党内予備選は行われない見込みとなり、アラヤ市長がPLNの大統領選候補として事実上決定した。

アラヤ氏とベロカル氏はかねてより「PLNの原点回帰」や「社会の不平等解消」といった政策の一致が多かったため、今回の合流が成立したと見られる。ベロカル氏は今後アラヤ陣営の選挙チームの一員となり、「アラヤ政権」発足後半年間の優先政策作成チームを率いることとなった。アラヤ市長は、ベロカル氏に対して、予備選撤退と引き替えに同市長が大統領選挙に勝利した暁きにポストのオファーを約束したことは否定したが、ベロカル氏が何らかのポストに就く可能性は否定しなかった。

2. チンチージャ政権の動向

(1) チンチージャ大統領による2013年重点政策の発表

1月8日、チンチージャ大統領が、以下の通り2013年の各分野の重点政策を発表した。

●経済

経済活性化政策の継続、インフレ率の5%以下への抑制、利子率低下の促進

●インフラ

北部国境沿い道路建設の完了、その他の公共事業の推進

●社会

貧困率の1%削減（2012年にはこれを達成しており、それに満足の意を表明）

●環境

コスタリカ電力公社（ICE）を中心とした天然ガスの使用促進。

●治安

（2012年の治安改善成果を強調し）2012年の成果の継続、組織犯罪への頭脳的対応。具体的には、引き渡し、電話盗聴、高価物品の押収等の権限を検察に付与する法律を整備する。

●統治機構改革

今週末に予定されている、大統領直属の賢人会議による報告書提出を受け、民主主義強化のための憲法及び法律改正を議論する。

(2) 賢人会議によるガバナビリティ改善のための提言

1月17日、大統領から任命された賢人委員会（パチェコ元国会議長が委員長、その他5人）が、ガバナビリティ改善のため、政府と国会の関係に関する大幅な制度改革を含む、97項目から成る提案を提出した。この提案を受けて大統領は、複数の閣僚からなるグループを結成し、2月25日までに、97の提案から優先度の高い提案を抜粋して、改革を実行するとしている。提案のうち、主要な点は以下のとおり。

●大統領は2期連続まで、国会議員は無期限連続再選が可能。

●国会は出席議員の3分の2の賛成で内閣不信任案を可決でき、可決されればすべての閣僚は辞職しなければならない。

内閣不信任案可決後、大統領は国会を解散して、可決後8または9週後の日曜日に国会議員選挙を実施できる。

●大統領は、国会が機能していないと判断すれば国会を解散できる。

●大統領府大臣の任命には国会の承認を必要とし、同大臣は内閣と国会の間の調整を行う。大統領府大臣は1ヶ月に2回国会に出頭して、政府の活動について報告する義務を負う。

●国会は特別国会召集時、政府が提出した優先法案のうち3ヶ月間に最低3法案につき、採決まで行う義務を負う。

●国会議員の数を最大87まで増やす。

●法案成立前の最高裁第四法廷（憲法法廷）による違憲審査を廃止する。

第四法廷は、法案成立後の手続き管理にのみ関わる。

3. 世論調査

(1) CID GALLUP 社による調査

1月15日から23日にかけて、全国1,282人を対象に実施。

●チンチージャ大統領の施政

非常に良い・良い： 30%（前回2012年9月は33%）

悪い・非常に悪い： 65%（同63%）

（支持率低下の傾向は止まらず、政権期間中最低の数字となった）

●今日大統領選があったら誰に投票するか

ジョニー・アラヤ・サンホセ市長： 45%

野党候補： 23%

（依然としてアラヤ市長に有利な数字が継続している）

●政党支持率

国民解放党 (PLN) : 36% (前回2012年9月は33%)

キリスト教社会統一党 (PUSC) : 11% (同12%)

市民行動党 (PAC) : 6% (同5%)

自由運動党 (ML) : 2% (同4%)

排除無き参画党 (PASE) : 1% (同1%)

●政治家個人としての評価

アラヤ・サンホセ市長 (PLN) : 65%

エプシー・カンベル (PAC) : 44%

オットン・ソリス (PAC) : 43%

チンチージャ大統領 : 40%

フィッシュマン議員 (PUSC) : 37%

ホセ・ミゲル・コラレス (野党指導者) : 31%

(これまで2位を保ってきたチンチージャ大統領が4位に転落。野党の統一候補として名が挙がるコラレス氏が浮上。)

(2) UNIMER社による調査

1月24日から2月4日にかけて、全国1,200人を対象に実施。

●チンチージャ大統領の施政

非常に良い・良い : 12% (前回2012年10月は12%)

悪い・非常に悪い : 55% (同53%)

●2014年大統領選で投票に行くか

行く、候補者も決めている : 24%

行くが、候補者は決めていない : 21%

候補者に疑問がある : 23%

他の疑問がある : 10%

行かないかもしれない : 3%

絶対に行かない : 19%

●(上の質問で「行く」と答えた人のうち)誰に投票するか

アラヤ・サンホセ市長 (PLN) : 27%

エプシー・カンベル (PAC) : 4%

オットー・ゲバラ (ML) : 3%

フアン・カルロス・メンドーサ議員 (PAC) : 1%

ペドロ・ムニョス (PUSC) : 1%

ルイス・ギジェルモ・ソリス (PAC) : 1%

誰でもない : 22%

●政党支持率

与党国民解放党（PLN）： 23%
市民行動党（PAC）： 6%
キリスト教社会統一党（PUSC）： 6%
自由運動党（ML）： 3%
支持なし： 63%

●国内の主要問題は何か

失業： 21%
治安： 18%
物価高： 17%
汚職： 12.3%
不景気： 9.3%
貧困： 6.5%
薬物： 4.4%

（長年の最大の問題であった治安が2位に下がり、代わって経済関連の懸念が強まっている）

4. モラ最高裁長官の死亡

2月17日、モラ最高裁長官が肺炎のため69歳の年齢で死亡した。政府は政令を発して同日から3日間を国喪とし、18日には国葬が行われる運びとなった。

モラ長官はコスタリカ大学法学部を卒業した後に、各地方の刑事裁判所判事を務め、第一次アリアス政権（1986－90年）には法務大臣を、その後最高裁判事を長年務めるなど、コスタリカの司法の発展に大きく貢献した人物である。次期長官が最高裁の中で決定されるまで、当面はビジャヌエバ最高裁副長官が長官代理を務める。

II. 外交

1. 地域機関関係

（1）チンチージャ大統領のCELAC首脳会合、CELAC－EU首脳会合及びSICA臨時首脳会合出席

1月26日から28日にかけて、チンチージャ大統領がチリを訪問し、CELAC首脳会合、CELAC－EU首脳会合及びSICA臨時首脳会合に出席した。

（ア）中米及びEUの各国首脳等は、1月26日、サンチャゴにおけるCELAC－EU会合のマージンにおいて会合を行い、1984年に設置されたサンホセ対話の枠組み以降、両地域間の関係が強固になってきているとの認識を再確認しつつ、連携協定を含む地域統合及び中米地域における治安問題について協議した。

（イ）チンチージャ大統領は、1月26日、CELAC－EU首脳会合において、コスタリカが中米地域統合プロセスを支援していくことを再表明したが、真の地域の発展を達成

するには、近代的、効率的で具体的な開発計画を提示・実施する能力を持った地域機関を創設することが必要と主張した。

(ウ) 1月27日、サンチャゴにおいてSICA臨時首脳会合が開催され、SICA諸国の首脳及び代表は、アレマンSICA事務局長の任期を、2013年2月1日から5ヶ月間、即ち、6月末まで延長することを決定した。

(エ) 1月28日、チンチージャ大統領は、CELAC首脳会合で、地域の33カ国は、協力、信頼、調和、一致の文化を醸成するよう要請した。同会合で、「チ」大統領は、武器・麻薬取引の対策を強化するよう呼びかけ、次期国連総会で武器貿易条約を締結するべく地域がより活発に活動するよう要請した。他方、「チ」大統領は、ラ米・カリブ地域は、世界経済危機にもかかわらず、高い経済成長を実現しているが、地域経済が国際経済のインパクトを緩和できるような協力メカニズムを模索する必要があると述べた。

(2) SICA関連

コスタリカは、今年上半期のSICA議長国に就任し、1月22日のコスタリカで開催された今年初のSICA会合には、中米、ベリーズ、パナマ及びドミニカ共和国の各国の代表団が出席した。リーベルマン副大統領は、「コスタリカは、SICAの効率を高める提案を行い、同地域の全ての市民が裨益を受けるべく、SICAの発展のために体制の枠組み強化にプライオリティーを置く。」と述べた。また、カスティージョ外相は、SICAの体制強化及び中米地域の治安が、コスタリカ議長国の期間中の優先課題である、環境、経済統合も重要課題である、治安問題は組織犯罪と麻薬犯罪など中米地域の重要課題になっている、また、女性に対する暴力についても取り組んでいく旨述べた。

2. メキシコ関係

2月20日、チンチージャ大統領とペニャ・ニエト墨大統領はサンホセで首脳会談を行い、両国関係が新たな時代に入ったことを確認し、貿易・投資関係の拡大、及び様々な分野における協力を強調した。チンチージャ大統領は、両国は過去に敬意を払いながら未来志向のビジョンを有し、現在の目的ために行動することをコミットしていると述べた。また同大統領は、ペニャ・ニエト大統領が就任後初の公式外国訪問先としてコスタリカを選んだことに謝意を示し、ペニャ・ニエト大統領に対して、フアン・モラ・フェルナンデス勲章の中でも最高位の大十字金章を授与した。ペニャ・ニエト大統領は、コスタリカが墨にとって優先順位の高い国であるとし、2011年以来有効な、二国間交流と多国間協力の効果的チャンネルである両国の戦略的パートナーシップ協定に基づき、政治対話、貿易・投資関係の協力のために協定審議会を強化していく旨述べた。

3. キューバ関係

(1) カスティージョ外相のキューバ訪問

1月9日、カスティージョ外相は、2009年のキューバとの国交再開以来、コスタリカの外相としては初めてキューバを公式訪問した。同外相は、昨年12月にキューバを公式訪問する予定だったが、キューバ側の都合で直前に同国訪問を中止した。1月10日、同外相は、キューバのロドリゲス外相と二国間関係について会談し、両国の協力関係を強化することで一致、また、地域や国際社会の共通のテーマ、特にCELACについて協議した。更に、同外相は、ロドリゲス外相に対し、次期WTO事務局長選挙で、コスタリカのゴンサレス貿易大臣をキューバが支持するよう要請した。

(2) チンチージャ大統領とカストロ国家評議会議長の会談

1月27日、EU・CELAC首脳会合の機会に、チンチージャ大統領は、キューバのカストロ国家評議会議長と、両国の首脳レベルでは50年ぶりとなる会談を実施した（コスタリカ側カスティージョ外相及びキューバ側ロドリゲス外相同席。）。両首脳は、今年キューバ、来年コスタリカが議長を務めるCELACについて、CELACの前進のために「円滑なる調整」に努めることで一致した。また、二国間関係について、チンチージャ大統領は、「文化、特に映画、医療、教育、環境の分野における関係を構築していく」と述べた。両国は、2009年3月18日に外交関係を再開して以来、コスタリカからは、外務省対外政策局長、外務次官、文化大臣、環境エネルギー通信大臣、外務大臣がキューバを訪問し、キューバからは、2012年に文化大臣がコスタリカを訪問している。

4. カリブ関係

カスティージョ外相のドミニカ国、グレナダ訪問

(1) ドミニカ国訪問

1月30日、カスティージョ外相は、チリにおけるCELAC首脳会合等に出席した後、ドミニカ国を訪問した。マッキンタイヤー開発貿易産業大臣との会談において、エコツーリズム、農業、環境分野における協力関係について協議した他、観光とりわけエコツーリズムに関する協力等に関する枠組みを検討していくための覚え書きに署名した。また、同外相は、コスタリカにおける成功例、コスタリカが協力可能な分野を視察するため、ドミニカ国代表団のコスタリカ訪問を招請した。

(2) グレナダ訪問

1月31日、カスティージョ外相はグレナダを訪問し、トーマス首相兼外相と会談した他、農業、観光、投資に関する協力枠組協定に署名した。同外相は、「両国への訪問は大変有意義で、コスタリカ外交の重要課題である中米・カリブ地域との関係強化をはかることができた。」と述べた。

5. ウルグアイ関係

アルマグロ・ウルグアイ外相の当国訪問

3月20日、ウルグアイのアルマグロ外相が当国を訪問し、カステージョ外相と会談し、二国間関係については、要人往来、協力、通商、政治対話、文化などの活動の活性化並びに国際法、外交官研修などの二国間協力プログラムを強化するための覚え書きを活性化することについて合意した。また、両国外相は、地域関係については、OASの下部機関である米州人権システムの強化の重要性、SICAとメルコスールとの通商関係も含めた関係強化及びCELCの重要性について協議した。米州人権委員会の機能に係る提言に関する作業は特に重要であると、更に、両外相は、小国にとって、200海里の大陸棚延長について意見交換することの重要性について意見の一致をみた。同様に、両外相は、武器貿易条約の交渉に共同で取り組んできたことを確認した。

6. 世界経済フォーラム関係

チンチージャ大統領の世界経済フォーラム出席

(1) チンチージャ大統領は、1月23日から27日まで、ゴンサレス貿易大臣とスイスのダボスで開催された世界経済フォーラムに出席し、各国の政界、財界人他と会合し、コスタリカへの投資を誘致し、また、ゴンサレス貿易大臣のWTO事務局長選挙の支持要請を行った。

(2) 1月23日、同大統領は、モンゴルのツァヒア大統領、ラトビアのドムブロフスキス首相、IDBのモレノ総裁と会談した。

(3) 1月24日、同大統領は、スイスのマウラー連邦大統領と会談し、コスタリカと欧州の貿易の重要性を説明し、また、コスタリカは今年6月にスイスが加盟するEFTAとの協定に署名する旨述べた。

(4) 1月24日、同大統領は、フィンランドのニーニスト大統領、ルワンダのカガメ大統領、オランダのルッテ首相と、通商、協力について会談するとともに、コスタリカのゴンサレス貿易大臣のWTO事務局長選挙の支持要請及びコスタリカのOECD加盟への支持を要請した。

(5) また、同大統領は、ナショナル・ジオグラフィック主催のセッションに参加した。コスタリカは、パナマ、コロンビア、エクアドルと熱帯東太平洋回廊の環境保護グループ国家を形成しているが、コスタリカは同グループの模範国と国際社会から評価されている。同セッションには、モナコのアルベール2世大公も出席したが、同大公はモナコのイスラ・デル・ココの環境保護のための協力を表明した。

7. バチカン関係

チンチージャ大統領の新ローマ法王就任式出席

3月19日、チンチージャ大統領は、アンティジョン経済産業商業大臣と共に、バチカンで、フランチェスコ新ローマ法王の就任式に出席した。右に先立ち3月17日、同大統領は、I N B I Oの庭にフランチェスコという名のエスパベルの木を植え、就任式の際、同目録を新法王に贈呈し、新ローマ法王をコスタリカに招待した。

8. 新規領事館開設及び在外投票

コスタリカ外務省は、新たに4つの領事館（グアダラハラ、シカゴ、トロント及びカリブの1公館）を開設する旨発表し、2014年2月の大統領選挙の際、合計54のコスタリカ領事館で投票できる。右決定は、外務省と選挙最高裁が共同して在外選挙を実施する合同委員会で作られた。在外選挙登録人数は、2013年1月時点では、6,418名に登り、2012年10月時点では5,485名だった。2013年1月の選挙最高裁の調査によれば、在外でコスタリカ人の選挙登録者数が最も多いのはニューヨークで、1,191名が登録している。この他、豪州、インド、シンガポール、カタール、中国などの遠方の国にもコスタリカ人選挙登録者がいる。コスタリカ外務省によれば、現在、在外在住のコスタリカ人は約5万人。